

取扱説明書

据付け用コントロールユニット

このたびは当社製品をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
お求めの製品を正しく安全にご利用いただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただきますようお願いいたします。

この取扱説明書は、工事完了後保守点検管理ご担当者に必ずお渡しください。
なお、当社製品に関するお取扱上のご質問・ご相談などがございましたら、
最寄の事業所までお問合せください。
※当取扱説明書は、予告なく内容を変更する事がありますので、あらかじめご了承ください。



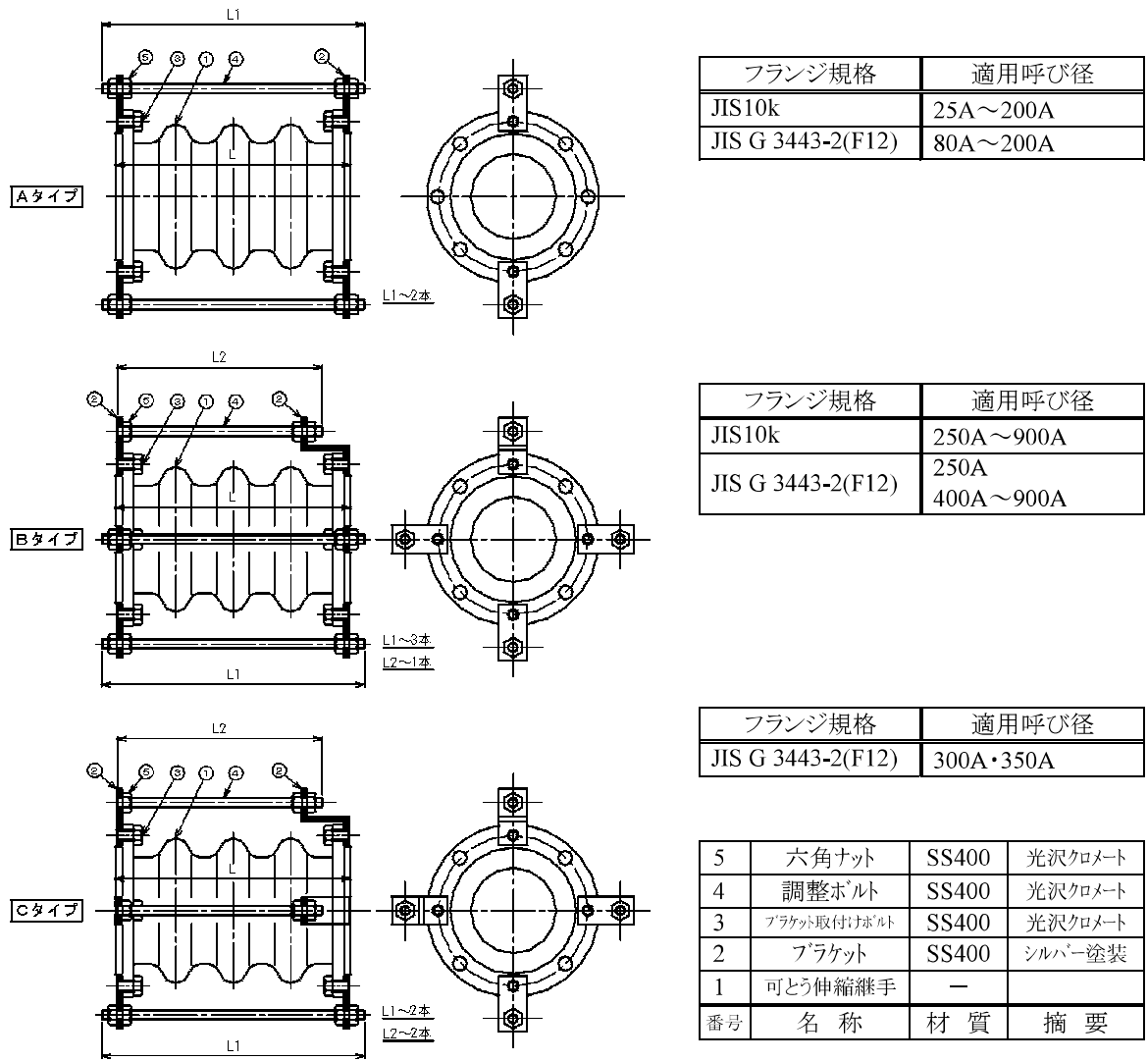
株式会社 TOZEN

東日本事業所：TEL 050-3538-2091（代） FAX 050-3538-2094

西日本事業所：TEL 06-6578-0310（代） FAX 06-6578-0312

URL：http://www.tozen.co.jp Email：sales@tc.tozen.com

1 据付け用コントロールユニットタイプ別の適用呼び径と支持形状



* 挿給は3山タイプを示す

図-1

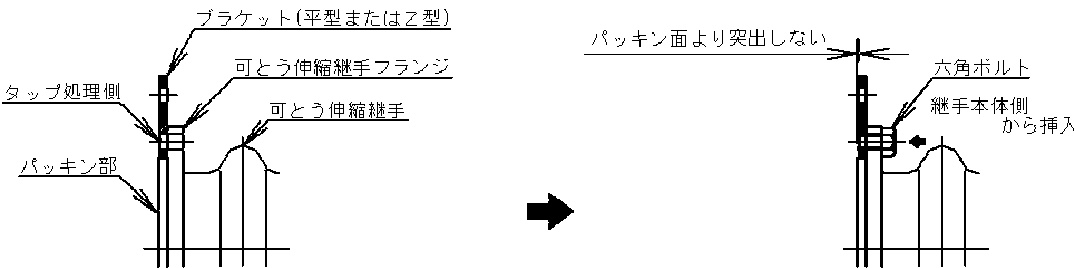
2 使用上の注意事項

- (1)ご使用前に、製品の損傷の有無をご確認ください。
- (2)製品を無理に変形させたり、分解しないでください。
- (3)フランジ規格によるタイプ別および適用呼び径以外の使用はできません。
- (4)据付け用コントロールユニットは繰返し使用することができますが、繰返し使用することでブラケットの変形、ボルトねじ部の潰れ等が生じた物についてはご使用しないでください。
可とう伸縮継手に無理な応力等が負荷され、損傷、破損の原因となります。
- (5)接続フランジボルトの芯にズレが生じていても、コントロールユニット未装着の可とう伸縮継手はルーズフランジのため、接続は可能ですが、当製品である据付け用コントロールユニットを使用する場合、ルーズフランジ機能は損なわれますのでご注意願います。
- (6)ブラケットの塗装はシルバー塗装の化粧程度です。調整時に剥れたり、傷が付く場合がありますが、調整に支障はありません。

3 施工上の注意事項

3-1.可とう伸縮継手への取付け方法

- (1)可とう伸縮継手フランジの配管取付けボルト穴を利用し、パッキン部の厚み側にブラケット(タップ処理側)を挿入します。
- (2)挿入後、付属の六角ボルトにて可とう伸縮継手本体側からブラケットのタップを使用して締結します。
注)ブラケットがパッキン面より突出していないことを確認してください(ブラケット厚み<パッキン厚み)。



- (3)「1 据付け用コントロールユニットタイプ別の適用呼び径と支持形状」(図-1)を参考に対角及び対称に取付けてください。

注)Z型形状のブラケット(Cタイプ)は同一フランジ側且つ、隣同士に取付けてください。

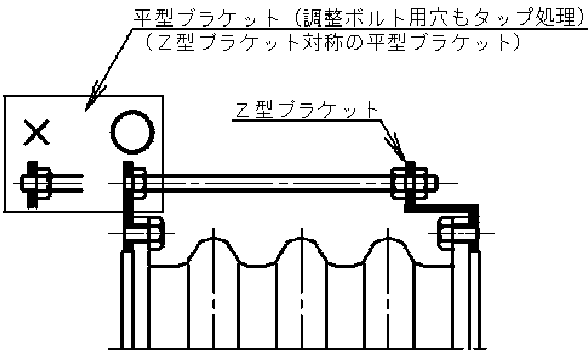
- (4)ブラケットに調整ボルトを挿入し、図-1のように六角ナットにて締結します。

注)Z型ブラケットはBタイプが1ヶ、Cタイプが2ヶ支持されます。

Z型を取付けた対称側の平型の調整ボルトはパッキン面より突出させないでください

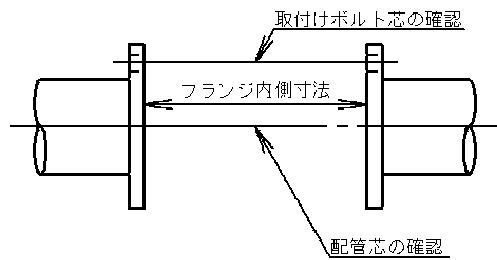
(突出した場合、可とう伸縮継手の取付けはできません)。

また、Z型を取付けた対称側の平型のブラケットは調整ボルト用の穴もタップ処理がしてあります。



3-2.据付けコントロールユニットの調整方法

- (1)下記 2 箇所の寸法を測定します。
- 据付け用コントロールユニットを装着した可とう伸縮継手の面間寸法(図-1:L 寸法)。
 - 可とう伸縮継手を挿入する配管ラインにおけるフランジ間の内側寸法(下図参照)。
 - 配管ラインの芯および取付けボルト芯にズレが生じていないか確認する(下図参照)。
- ズレが確認された場合、配管を修正し、芯を合わせてください
(据付け時に可とう伸縮継手での芯の調整はできません)。



- (2)フランジ内側寸法の計測値に合わせ、据付け用コントロールユニットを下記例を参考に調整します。
また、調整する値は計測値に± α mm(数 mm 程度)を加味するとより施工がスムーズとなります。

例)

計測部位	伸び(継手を伸張)方向	縮み(継手を圧縮)方向
フランジ内寸法計測値	205mm	190mm
可とう伸縮継手の面間寸法計測値	200mm	200mm
調整値(± αを加味)	204mm(+4mm)	188mm(-12mm)

()内寸法は許容変位量内のみ可能
但し、可とう伸縮継手の許容変位量(伸縮)以内での調整とします。
許容変位量を超える調整は製品に無理な応力等が負荷され、損傷、破損の原因となります。

	Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
概略図			
伸縮の調整方法	＜伸び(継手を伸張)方向＞ 1. □内、片側は動かないように六角ナットを締込む。 2. 必要な伸び量分、六角ナット④を緩める(図示上、右方向)。 3. 緩めた分、六角ナット①を締めこむ(図示上、右方向)。 その際に支持数分、均等に締めこむ(例: 支持 1 箇所につき 5mm づつ等)。 ＜縮み(継手を圧縮)方向＞ 1. □内、片側は動かないように六角ナットを締込む。 2. 必要な縮み量分、六角ナット①を緩める(図示上、左方向)。 3. 緩めた分、六角ナット④を締めこむ(図示上、左方向)。 その際に支持数分、均等に締めこむ(例: 支持 1 箇所につき 5mm づつ等)。		

3-3.配管への取付け方法

- (1)据付け用コントロールユニット調整後、タイプ別に下記の方角にて配管へ挿入してください。

タイプ	平面図概要(上あるいは下から見た図示)	注意事項
A		ブラケットが支持されていない可とう伸縮継手フランジ部を挿入中心として配管ラインに取付ける。
B		Z 型ブラケット(1 ヶ)が支持されている可とう伸縮継手フランジ部を挿入中心として配管ラインに取付ける。
C		Z 型ブラケット(2 ヶ)が支持されている可とう伸縮継手フランジ部を挿入中心(左図)として配管ラインに取付ける。

- (2)挿入完了後、据付け用コントロールユニットを支持していない可とう伸縮継手フランジ部の取付け穴を使用して配管フランジと仮留め締結する。

- (3)上記作業終了後、据付け用コントロールユニットを全て取外し、(2)と同様に締結する。

※取付け詳細は継手納品時に同梱包されております「取扱説明書 ゴム製可とう伸縮継手」
接続時の注意事項を参照して取付けてください。

- (4)据付け用コントロールユニットを次製品取付けにご使用される場合は、大切に保管してください。